

実践のまとめ（第2学年 英語科）

糸魚川市立糸魚川東中学校 教諭 滝川 陽介

1 研究テーマ

主体的に学習し、地球市民としての意識を高めようとする生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領が2021年より完全実施され、「主体的・対話的で深い学び」が重視されるようになった。「主体的に学習に取り組む態度」については、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」によると、自己調整学習能力と粘り強さの二つの観点で評価されるという。それに向けて、単元のゴールや目指す姿を生徒と共有し、逆向きデザイン(バックワードデザイン)で単元を構想する必要が一層高まったように思える。知識・技能を粘り強く習得しようとする態度、深い思考を伴うパフォーマンス課題を自身の目標と照らし合わせながら自己調整学習していく態度、こういった主体的な態度を、単元を通して育みたいと考え、このテーマを設定した。

また、使用している教科書Sunshine English Course（開隆堂）の裏表紙には「英語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、日本と諸外国との異文化相互理解を深め、豊かな心をはぐくみ、幅広い教養を身に着けることを目指しています。」と記されている。教科書を英語の技能を習得するためだけに使用するのではなく、異文化や国際社会の内容に触れ外国語の見方・考え方を働かせることが必要である。生徒の心を豊かにし、地球市民としての自覚を高めるために教科書を活用していきたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 目指す姿【主体的に学習する生徒】への取り組み

知識・技能を粘り強く習得しようとする生徒を育成するために、以下のように繰り返しチャレンジできる3つの課題のシステムを構成した。

| | |
|----------|---|
| 単語チャレンジ | 授業内で同じ単語のテストを3回行い、3回目を評価する |
| まとめチャレンジ | 文法問題を15問、英作文問題が1題含まれた内容が同じテストを2回実施し、2回目を評価する |
| 音読チャレンジ | 生徒が指定ページを音読し、読む速さと意味の伝わる読み方ができているかを評価する（何回も教師に評価してもらるか、オンラインで音読動画を提出する） |

また、パフォーマンス課題（PF課題）を実施する前の授業では、プレテストとして生徒同士でお互いのパフォーマンスを確認しあったり、教師がアドバイスしたりして形成的評価を与える場面を設ける。その際に、PF課題の評価ルーブリックを参照し、生徒が自己調整学習能力を働かせ、主体的に学習できるように単元を構成する。

知識・技能の分野でも思考・判断・表現の分野でも、自身の実態にあった目標を生徒と一緒に考える機会を設けたい。毎回の授業で自身のゴールを決めながら単元を進め、生徒が小さな成功体験を積み重ねて、主体的に学習に取り組みたいと思える学習環境を整えたい。

②目指す姿【地球市民としての意識を高めようとする生徒】への取り組み

1年時に使用していた Sunshine English Course 1（開隆堂）では、世界の通学をテーマにした単元があったり、1学期の授業ではアフリカ甲子園をテーマにした単元があったりと、これまで生徒はSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」に触れている。また Sunshine English Course 2、3（開隆堂）では今後、平和や海洋問題、パートナーシップなど、社会的な話題を扱う単元が徐々に増えていく。そこで、卒業時までの学習内容を見据え、生徒が世界市民としてのSDGsにより関わろうとする意識を高めることを目的に、教科書の内容を入り口にしながら、異国の文化や世界状況を知る動画や教材を生徒に示したい。また、今後はALTに生まれ育った故郷の話や海外での生活などを紹介してもらったり、外部のゲストティーチャーに英語を伝えたりすることを通し、異文化に触れる機会を多く設けたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

①【主体的に学習する生徒】の評価

- ・1学期末、2学期末、3学期末にGRITテスト（粘り強さを図るテスト）の質問項目を使用したアンケートを実施し、集団の平均値の変容と、以下の抽出生徒の変容で評価する。
 - A生徒、B生徒（英語の授業が好き・英語が不得意）
 - C生徒、D生徒（英語の授業が好きではない・英語が不得意）
- ・上記の抽出生徒の単元末に行うテストの成績の変容で評価する。

②【地球市民としての意識を高めようとする生徒】の評価

- ・生徒の振り返りのなかで「文化」「SDGs」などの言葉がどのように使用されているかといった質的な判断をする。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Program 6 “High-Tech Nature”（Sunshine English Course 2 開隆堂）

(2) 単元（題材）の目標

【学習指導要領の目標より】

○話すこと（発表） ウ

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

○話すこと（やりとり） ウ

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

【知識・技能】

| | | |
|---|--|-----------------|
| ア | 基本的な単語や文法知識（比較表現）を理解することができる | 各チャレンジ |
| イ | 学習した知識を働かせ、社会的な話題の英文を読んで要点を捉えたり、簡単な英文を書いたりすることができる | 各チャレンジ 単元テスト |

【思考・判断・表現】

| | | |
|---|--|----------|
| ア | 目的・場面・状況にあった、簡単な英文を書くことができる | まとめチャレンジ |
| イ | バイオミミクリーがどのように活用されているかを英語で発表し、ALTとやりとりすることができる | PF課題 |

【主体的に学習に取り組む態度】

| | | |
|---|---|-------------------|
| ア | 粘り強く知識・技能を習得しようとしたり、自己調整学習能力を働かせながら課題を解決しようとしたりする | 各チャレンジ 生徒の振り返り |
| イ | バイオミミクリーがどのように活用されているかを英語で発表しようとし、ALTとやりとりしようとする | PF課題 生徒の振り返り |

(3) 単元の評価規準

①各チャレンジ

(知識・技能アイ、思考・判断・表現ア、主体的に学習に取り組む態度ア)

| | | | | | |
|-----|---------|--------|--------|--------|-------|
| | S | A | B | B- | C |
| 達成率 | 100～90% | 89～80% | 79～51% | 50～25% | 24～0% |

※まとめチャレンジ英作文は内容、文量、正しさを採点する

②パフォーマンス課題と評価ルーブリック

2年 PRG5 PF 課題内容【Writing】

2026年に「イトイガワSDGsフォーラム」を開催することとなりました。そこでアメリカ出身のマイケル大使は以下のように言っています。

We need the new Technology for SDGs.
We heard there are good technologies from nature and creatures.
What technology are students interested in?
What is it useful for? Please send me your video!

※実際にビデオを送る前にマイケル大使にグループでプレゼン&トークタイムがあります。
【評価】 ①グループプレゼンでのトークの部分 ②ビデオでのプレゼン と2段階で行います。

評価ルーブリック …「詳しく」などの曖昧な部分は生徒とどの様な姿が良いかを考える

| | 大使とのトーク | プレゼンの内容 | 相手意識 | 正しさ【知様にも】 |
|---------|------------------------|-------------------------------------|--|-----------------------------|
| S 5 | 相手の質問に 詳しく答えることができる | 調べたバイオミミクリーについて伝えることができる ●内容の詳しき | 会話でもスピーチ(ビデオ)でも、聞き手を意識して伝わりやすく話すことができる ●会話では… | だいたい正しい英語を使用し、●スピーチと●会話ができる |
| A 4 | ●会話を続けることができる | ●内容の深さ | ●スピーチでは… | |
| B 3 | 相手の質問に答えることができる | 調べたバイオミミクリーについて伝えることができる | 会話でもスピーチ(ビデオ)でも、聞き手を意識して話すことができる | 英語を使用し、スピーチと会話ができる |
| B- 2 | 相手の質問に答えることができるがわかりにくい | 調べたバイオミミクリーについて伝えることができるがわかりにくい | 会話でもスピーチ(ビデオ)でも、聞き手を意識して話すことができるがわかりにくい | 英語を使用し、スピーチと会話ができるがわかりにくい |
| C | 相手の質問に答えることができない | 調べたバイオミミクリーについて伝えることができない | 会話でもスピーチ(ビデオ)でも、聞き手を意識して話すことができない | 英語を使用し、スピーチと会話ができない |

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全14時間、本時7/14時間)

単元のイメージ



| | | ・学習内容 | ◎学習活動 | 評価規準と方法 |
|----|--------|--|--|---|
| 始 | 1時 | ・バイオミミクリーを知ろう | ◎ガイダンスを聞き、P F 課題の目標を考える ◎Part 3 を音読し、読み方や意味を考える | 見届けて、指導に生かす。記録に残す評価は行わない。ただし、目標に即して生徒の活動状況を見届けて、指導に生かす。 |
| 1節 | 2時 | ・P F 課題ガイダンス ・比較級の知識を学習する | ◎P F 課題の目標を立てる ◎Scenes を読み、問題を解く | |
| | 3時 | ・最上級の知識を学習する ・気になるバイオミミクリーを調べよう | ◎Scenes を読み、問題を解く ◎バイオミミクリーについて調べる | |
| | 4時 | ・同等比較 as の知識を学習する ・仲間と紹介するバイオミミクリーを決めよう | ◎Scenes を読み、問題を解く ◎班でバイオミミクリーを調べる | |
| | 5時 | ・まとめチャレンジ①で知識を整理する | ◎英作文の模範解答を仲間と作成する | |
| | 2節 | 6時 | ・Retell を通しバイオミミクリーとSDGs を考える | |
| | 7時(本時) | ・Retell を通しバイオミミクリーとSDGs を考える | ◎Part 2 を読み、バイオミミクリーについて Retell する | |
| | 8時 | ・Retell を通しバイオミミクリーとSDGs を考える | ◎3つのバイオミミクリーについて Retell する | |
| | 9時 | ・まとめチャレンジ②で知識をまとめよう | ◎まとめチャレンジを解く | |
| 3節 | 10時 | ・P F に向けて Speech を作ろう | ◎スピーチで話す内容を調べ、考える | |
| | 11時 | ・P F に向けて Speech を作ろう | ◎スピーチで話す内容を調べ、考える | |
| | 12時 | 【発表プレテスト】 【やりとりテスト】 ・A L T に向けて仲間とバイオミミクリーを発 | ◎グループの仲間と一緒に発表をする | 思考・判断・表現 ^イ …【P F テスト】 主体性 ^イ …【P F テスト】 |

| | | | | |
|-----|----------|----------------|---------------|-------------------------------------|
| | | 表し、会話をしよう | | |
| 13時 | 【P Fテスト】 | ・自身のスピーチを録画しよう | ◎スピーチを録画し提出する | 思考・判断・表現イ …【録画】 主体性イ …【録画】 |
| 14時 | | ・単元を振り返ろう | ○振り返りを行う | 主体性イ …【振り返り】 |

4 単元と生徒

(1) 単元について

Program 6 ではバイオミミクリー (Biomimicry) についてのトピックを扱う。実際に、世界ではこの技術をSDGsに役立てようという動きが多くみられ、被災地や戦場などの危険な場所で蛇型のロボットが使用されたり、ニジマスの形と動きを模倣した水力発電が発明されたりしている。この単元では、比較級・最上級・同等比較の表現を学び、生物とテクノロジーを比較しながらバイオミミクリーの3つの例を読む。それらをRetellする活動をしなが、教科書外のバイオミミクリーについて仲間と調べて英語で発表するP F課題を最終ゴールと見据えながら逆向き設計で単元を構成する。

(2) 生徒の実態

学級内の生徒の人間関係はおおむね良好で、ペア活動やグループ活動を積極的に行おうとする姿がみられる。一方でNRTの値が全体的に低く、グループ活動や話し合いの中で答えを導くことができなかつたり、英語が読めず(文字から音声にすることに困難を抱える生徒もいる)に学習性無気力を感じている生徒もいたりする。

家庭学習の様子は、定期的に行われる単元テストには、ある程度まとまった時間をかけ学習を行うが、日常的に課題に向かって学習するという習慣があまり身に付いていない生徒が多い。学習指導要領が実施されて何年かが経ち、各教科で多くの課題やテストが課されている中ではあるが、スケジュールを確認し、自身を調整しながら、目標に向かって粘り強く学習する姿に課題があるように感じる。

5 本時の展開 (令和7年11月17日実施)

(1) ねらい

- バイオミミクリー(ボート用ブーツ)について読み、読んだ内容について紹介することができる
- バイオミミクリーが生活のどのような場面で役に立つかを考えることができる

(2) 展開の構想

本時の授業では、読んだ内容を伝えなおすこと(Retell)を通し、P F課題に近い活動を疑似的に行うことをねらいとする。単元末を見通し、基礎的な知識を身につけるために毎授業のルーティンワークとして、Part 3の音読をする活動から始める。

展開の部分ではバイオミミクリーについて文章を読み、Retellを行う。そこで終わるだけでなく、どのように生活に役立てるかを考えることを通し、生徒がSDGsを身近に感じることができるように工夫をする。

(3) 展開

| 時 | ・学習活動 | △生徒の反応 ○教師の支援 | ◇留意点 □評価 |
|--|---|---|---|
| 8 | 【Warm-Up】 ・音読チャレンジ | ○生徒がレベルを決定できる様に声かけをする | ◇できるだけ短時間で英語授業の雰囲気を作る |
| 15 | 【前時の復習】 ・前時のページを読み Q and A を解く 【教科書本文 Reading】 ・本文を聞き概要をつかむ ・教科書を黙読し概要をつかむ ・音声を聴き仲間と概要をつかむ ・音声 Repeat し、音声を確認する ・TF Question で本文の要点をつかむ | ○写真を使用し、生徒のスキーマを高める | ◇黒板に答えを記入 ◇ゆっくりと読み上げる |
| 20 | 【Retell】 | | |
| 課題 写真を見せながらバイオミクリーアイテム(ボート用ブーツ)をプレゼンしよう | | | |
| | ・英文にフラッシュを書き意味のまとまりを整理する ・意味を意識して音読練習する ・Read & Look Up ・教師の模範 Retell を見て、課題を確認する ・思考ツール(Y字チャート)を使用しノートにメモをとる ・ペアトーク (1巡目) (1) S 1 → S 2 (2) 共有、指導 (3) S 2 → S 1 (4) 共有、指導 ・ペアトーク (ペアを替え 2巡目) (1) S 1 → S 2 (2) S 2 → S 1 (3) 共有、指導 ・SDGs につながる例を紹介する | △数人の生徒がまとまりを意識して / を書くことができない ○ALTと一緒にモデルトークを見せる △単語のみで伝えようとする △日本語で伝えようとする ○共有で言うように指導 ○言いたかった言葉を生徒と共有する | ◇画面で表示する ◇間違っても良い雰囲気を作るための音楽 ◇机間指導 ◇必要であれば、日本語で内容を再考する時間を設ける |
| | | S 1 : Look. This is "boat shoes" It is... . S 1 : What do you think of this item? S 2 : I think it is nice. S 1 : What is it useful for? Tell me your idea? S 2 : Ah...Fishing? | |

| | | | |
|---|--------------------------------------|---------------------|---------------------|
| 7 | 【まとめ】 ■ ノートに Retell した文章を 記入する | ○記入できない生徒の補助 を行う | □本文の内容を伝え直 そうとする |
|---|--------------------------------------|---------------------|---------------------|

(4) 評価

| A | B | C |
|--|-----------------------------------|------------------------------------|
| 書いたメモからバイオミミク リーアイテムを紹介し、どの ように役立つかを英語で話す ことができる。 | 書いたメモからバイオミミ クリーアイテムを紹介でき る | 書いたメモからバイオミミ クリーアイテムを紹介でき ない |

6 実践を振り返って

(1) 授業の実践

①各チャレンジ（単語、音読、まとめ）の授業内での活動について（1節）

生徒のアンケートでは、多くの生徒が「単語を書くこと」「流暢に読むこと」などの力が身についたと回答していた。単元を通し、授業の帯活動として各チャレンジを行うことで単語や文法などの知識、音読する技能が定着した。しかし、授業で知識・技能の定着に多くの時間を使ってしまっており、中心となる言語活動をする時間が少なくなってしまう反省点が見つかった。

②SDGsに関する言語活動（2節）

教科書本文のRetellを通し、SDGsについてやりとりをする場面を設けた。しかし、教科書本文のテーマが直接的にSDGsに関わりがなく、あまり発展したやりとりが見られなかった。本単元ではバイオミミクリーがSDGsに関わっていることを紹介する程度に留め、無理にSDGsにつなげる活動を設けなくてもよかったと推察できる。

(2) 研究テーマに関わる評価

①【主体的に学習する生徒】に関する評価結果①は以下の通りである（表1）。

表1

| | 1学期 | 2学期 | 1学期単元テスト | | 2学期単元テスト | |
|-----|------------|------------|----------|--------|----------|-----|
| | G R I Tスコア | G R I Tスコア | 単元1 | 単元2 | 単元3 | 単元4 |
| 平均値 | 30.19/55 | 31.82/55 | 62/100 | 59/100 | 67 | 66 |
| A生徒 | 30/55 | 45/55 | 46 | 41 | 66 | 56 |
| B生徒 | 22/55 | 28/55 | 29 | 30 | 55 | 45 |
| C生徒 | 21/55 | 25/55 | 65 | 65 | 75 | 83 |
| D生徒 | 32/55 | 40/55 | 60 | 64 | 65 | 68 |

A生徒、B生徒（英語の授業が好き・英語が不得意）

C生徒、D生徒（英語の授業が好きではない・英語が不得意）

上記の結果より、G R I Tスコアと各生徒の成績の上昇が確認された。各チャレンジを繰り返し行ったりプレテストを行ったりすることにより、粘り強さや自己調整力といった主体性に影響があったと考えられる。一方で、抽出生徒以外で、成績が上がって

る一方でG R I Tスコアが下降傾向にある生徒も数人見られた。各種大会や生徒会活動などで時間が取れなかったなどの理由も考えられる。

以上のことから、各チャレンジのシステムは生徒の主体性に効果はあるが、生徒の生活や環境などに強く影響される可能性があると考えられる。

②【地球市民としての意識を高めようとする生徒】に関する評価

本単元では生徒の振り返りに「SDGs」「文化」といった記述は見られなかった。本単元で扱う教科書本文では、直接的にSDGsや海外の文化に触れるものではなかったことが大きな要因と考えることができる。

単元末のPF課題にSDGsについてやりとりする言語活動を設けることで、生徒が教科書の内容とSDGsを繋げて思考すること想定していた。しかし、振り返りには「バイオミクリーの考え方に驚いた」といった記述が多く、教科書本文を大きく超えて無理やりSDGsの話題を取り扱ってもあまり効果がないと考察した。

(3) 今後の課題

①生徒の主体性について

今後、学習指導要領の改定に伴い主体性の定義が変わる。チャレンジシステムやプレテストなどの手法を用いることで、教師が与えた課題やテストに一生懸命に学習する生徒を育成することができることを確認できた。しかし、自身で課題を見出したり、自身で目標を設定したりするような、教師に依存しない主体性を育てていくことが課題である。

今後、生徒と一緒に授業の目的や課題を作成する授業設計にしたり、授業内に振り返りの時間を設けたりする必要がある。生徒に一番必要な課題を精査し取捨選択しながら授業のスリム化を図り、教師主導ではなく生徒が主体的になる場面を多くした授業を行いたい。

②地球市民としての意識について

本単元でもSDGsに触れる授業を行ったが、今までの生徒の振り返りの蓄積を見ると、「SDGs」や「文化」といった記述は海外の食文化や海外の自然を取り扱った単元の方がより多く見ることができた。一つの単元だけで、地球市民としての意識を高めるということは難しく、長期的に育まれていくものであると考える。そこで中学校卒業までに目指す姿や身につけてほしい資質・能力を明確にイメージすること、各学年の教材を理解することを通し、バックワードデザインで計画的な学習計画を立てることが必要不可欠である。

<参考・引用文献>

文部科学省, 中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 外国語編, 東京: 開隆堂出版株式会社, 2018.

国立教育政策研究所, 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」, 東洋館出版社, 2020.